

2015年3月期第2四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社 代表取締役社長

2014年10月31日



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

I . 2015年3月期第2四半期 業績概要

I -1. 事業概要

I -2. 連結決算概要

I -3. 2015年3月期 通期業績予想(連結)

II .その他

I -1. 事業概要

計測事業

開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場：LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備

産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率)

2014年3月期 実績(連結)：1,019億円

計測 75%			産業機械 16%	その他 9%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 17%	アジア、パシフィック 30%	米州 35%	EMEA 18%
-----------	-------------------	-----------	-------------

I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -



計測：アジア市場が全体を牽引

産業機械：受注高は前年と同程度

セグメント	2015年3月期第2四半期(4月-9月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル:LTE-Advanced開発用需要が堅調 ・ネットワーク・インフラ:光・デジタル計測器の競争激化 ・エレクトロニクス:顧客の投資抑制傾向が継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本:設備投資全体が低調 ・アジア:TD-LTE関連の開発投資が堅調 製造用は前年並みで継続 ・米州顧客:世界開発拠点へ分散投資傾向が強まる
産業機械	海外は堅調な一方、国内は前年同期比減収

I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位:億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	506	489	△ 17	△3%
売上高	481	480	△ 1	△0%
営業利益	63	46	△ 17	△27%
税引前利益	66	50	△ 16	△24%
当期利益	43	35	△ 8	△19%
当期包括利益	56	51	△ 5	△9%
フリーキャッシュフロー	45	51	6	14%

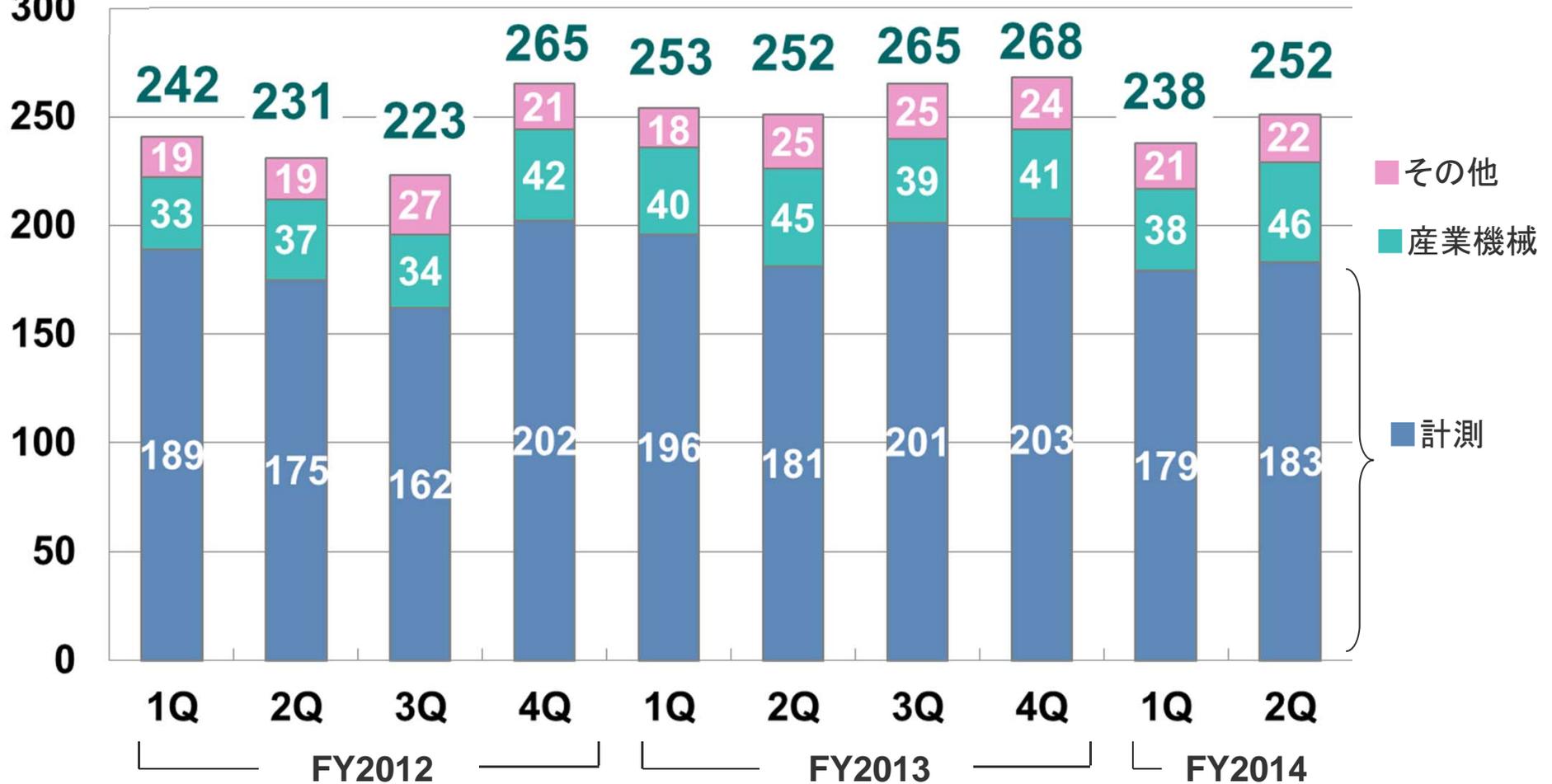
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -



計測事業:前年同期比 1%増

億円
300



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

国際会計基準(IFRS)

(単位:億円)

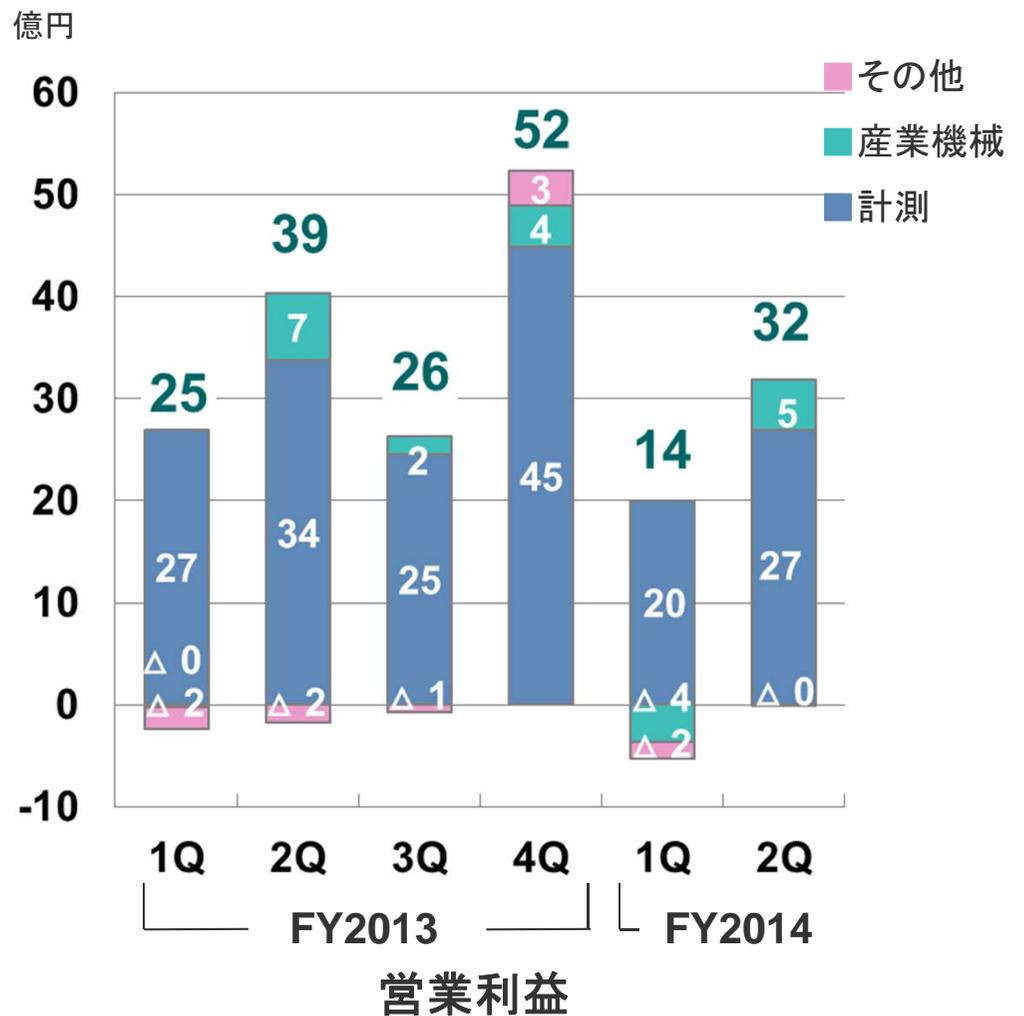
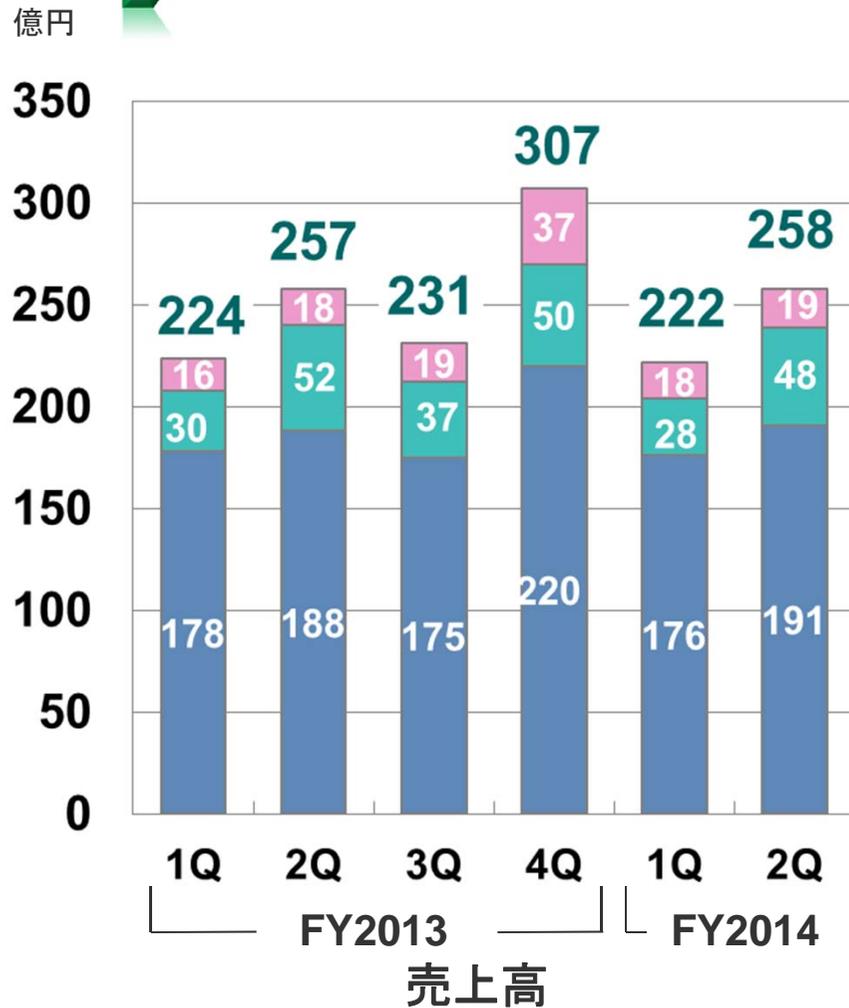
		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	365	367	2	0%
	営業利益	61	47	△ 14	△23%
産業機械	売上高	82	77	△ 5	△6%
	営業利益	6	1	△ 5	△79%
その他 (含:内部消去)	売上高	34	37	3	9%
	営業利益	△4	△2	2	-
合計	売上高	481	480	△ 1	△0%
	営業利益	63	46	△ 17	△27%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -



第2四半期の営業利益率 12.4% (計測事業 14.2%)



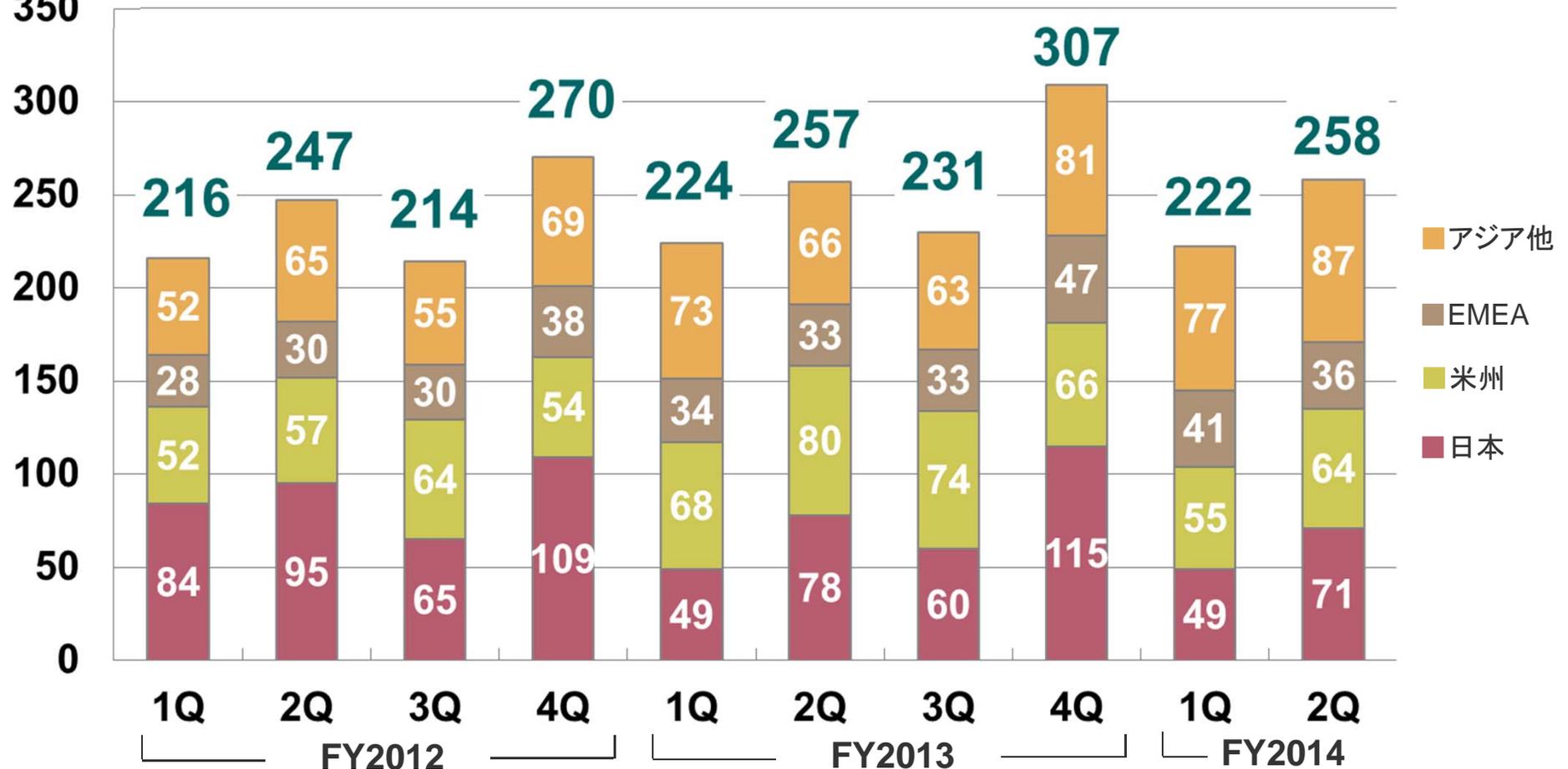
(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -



前年第2四半期比、アジア・EMEAで増加、米州・日本で減少

億円
350



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2014 Q2(累計)

- ①営業CF: 67億円
- ②投資CF: △ 16億円
- ③財務CF: △ 40億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 51億円

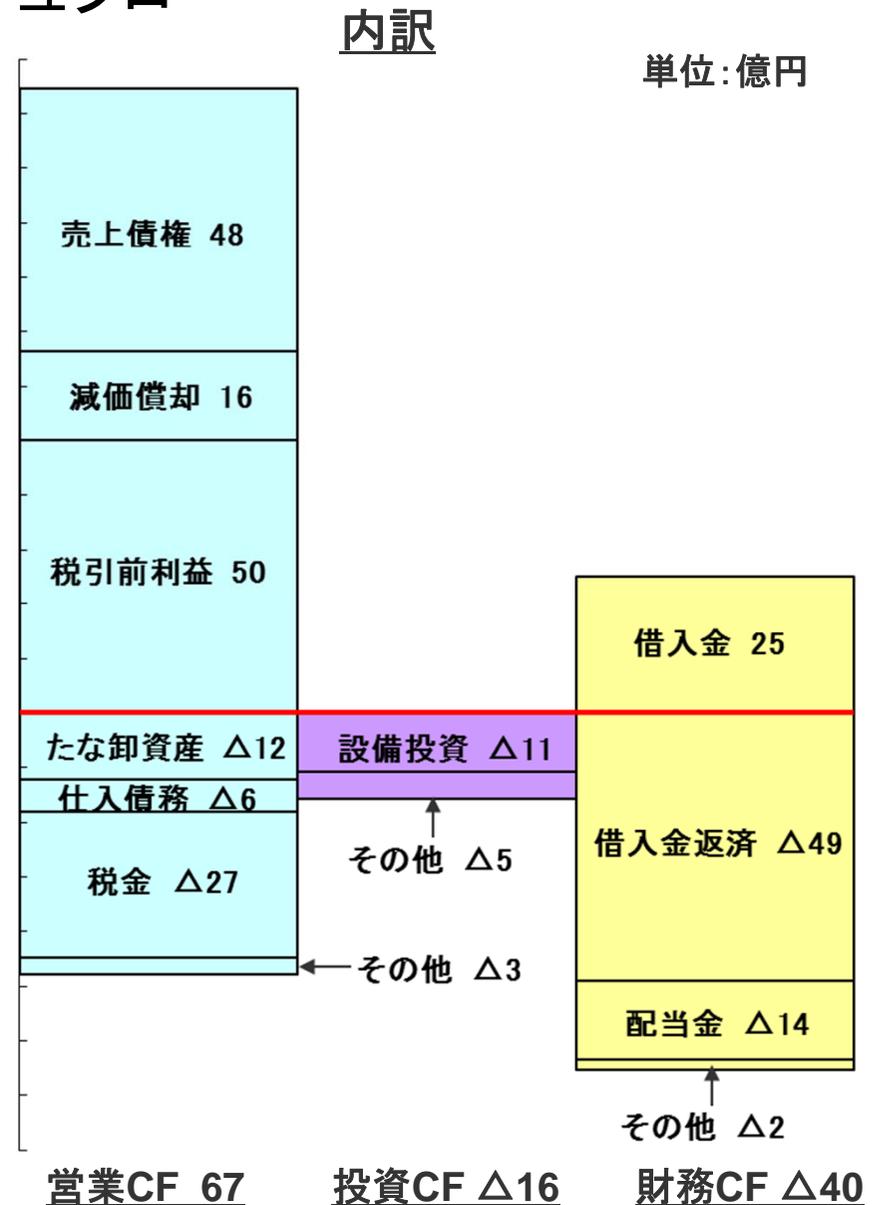
現金同等物期末残高

451億円

有利子負債高

165億円

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



I -3. 2015年3月期 通期業績予想(連結)



連結利益業績予想を下方修正

配当予定は変更なし(年間24円:うち、中間配当12円、配当性向35%)

(単位: 億円)

国際会計基準(IFRS)		2014/3期	2015/3期			
		前期実績	通期予想		前期比	
			4/24発表	今回	増減額	増減率(%)
売上高		1,019	1,090	1,045	26	3%
営業利益		141	160	141	0	0%
税引前利益		142	160	142	0	0%
当期利益		93	110	95	2	2%
計測	売上高	760	815	785	25	3%
	営業利益	130	145	130	0	0%
産業機械	売上高	169	180	165	△ 4	△ 2%
	営業利益	12	13	9	△ 3	△ 26%
その他	売上高	90	95	95	5	6%
	営業利益	△ 1	2	2	3	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 下期想定為替レート: 1米ドル100円、1ユーロ=135円

Ⅱ. モバイル市場のグローバルプレイヤー

■ 日本 ■ アジア、パシフィック
■ 米州 ■ EMEA

▶ チップセットベンダー

■ Qualcomm ■ Intel ■ Marvell ■ Nvidia ■ Broadcom ■ MediaTek ■ Spreadtrum
■ Hisilicon ■ Leadcore

▶ OTT / 端末メーカー / EMS

■ Apple ■ Google ■ Amazon ■ Microsoft+Nokia ■ Samsung ■ LG
■ Huawei ■ Lenovo ■ ZTE ■ Xiaomi ■ Micromax ■ HTC ■ TCL
■ OPPO ■ Coolpad ■ Sony ■ Kyocera ■ Sharp ■ Fujitsu
EMS ■ Foxconn ■ Asus ■ BYD ■ Quanta

▶ 通信オペレーター

■ Verizon ■ AT&T ■ T-Mobile ■ Vodafone ■ Orange
■ China Mobile ■ China Unicom ■ China Telecom
■ SK Telecom ■ DoCoMo ■ SoftBank+Sprint ■ KDDI

▶ テストハウス

■ 7Layers ■ Cetecom ■ SGS ■ TMC ■ CanvasM

Anritsu

モバイルブロードバンドをリードするプレイヤーとの強固な信頼関係と次々と台頭するプレイヤーへの迅速な対応を事業基盤として、顧客ニーズを先取りするソリューションを提供する

Ⅱ. 2014年度下期業績を支える新製品群

▶ 計測事業

ネットワーク・インフラ市場

MT1000A
ネットワークマスタ プロ
(2014年7月)



10 Gbps メトロ・バック
ホールネットワークの
建設・保守に1台で対応

MT1100A
ネットワークマスタ フレックス
(2014年10月)



100 Gbps コア・メトロネット
ワークの研究・開発、製造、
建設・保守に1台で対応

▶ 情報通信事業

帯域制御装置 PureFlow® GSX-XR



海外対応版をリリース 北米市場展開

▶ 産業機械事業

X線異物検出機 XR75シリーズ
(2014年11月)



保守費用を抑え生涯
コストを低減

密閉型のため高温・粉
塵等の環境でも安心

金属検出機 M5シリーズ
(2014年10月)



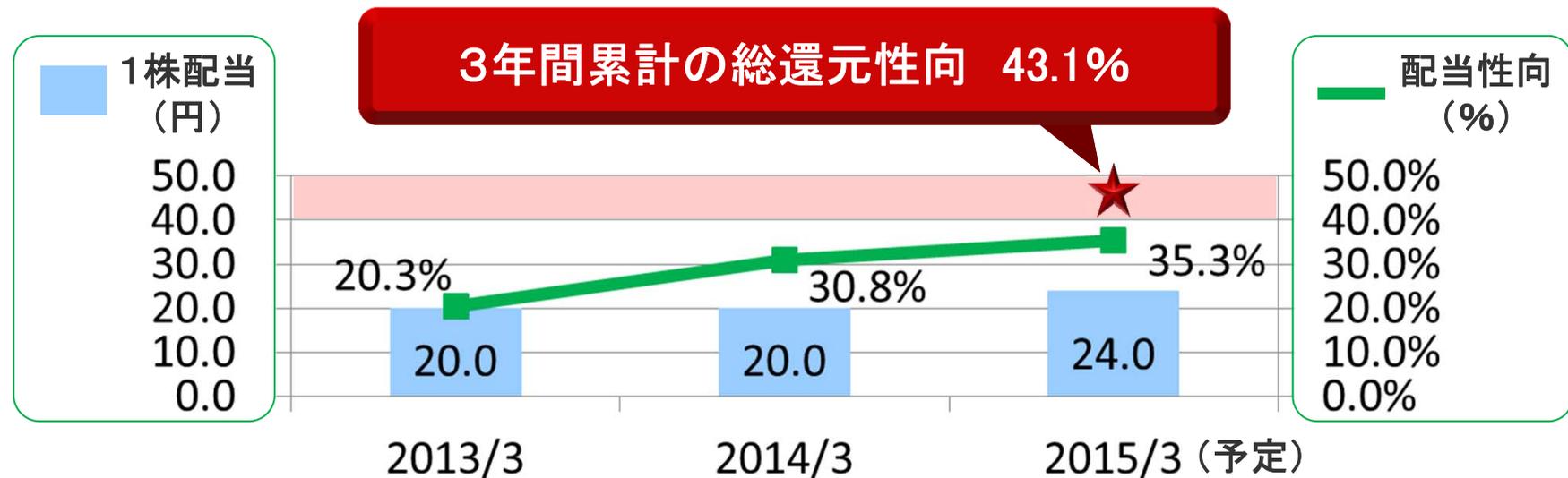
高コストパフォーマンス

簡易な画面操作と安定
性で生産性向上

Ⅱ.自己株式の取得 — 資本コストを意識した経営の実践 —

目的：資本効率の向上、株主還元の充実

1. 取得対象株式の種類 : 普通株式
2. 取得できる株式の総数 : 7,000,000株(上限)
3. 株式の取得価格の総額 : 50億円(上限)
4. 取得期間 : 2014年10月31日～2014年12月22日



Anritsu
envision : ensure